等より轉送せざるべからず。飛行場も亦漁業保護と高雄、海南島の連絡の爲、此島内に設けざるべからず。而して上川島より廣東に別に連絡をなさば可なり。西江流域に通ずるは青膽洋を本道とす、上に云ふが如し。新水道は一般に九メートルの水深を維持し、航洋船は上に云ふ江門溪の合流點の五キロの地點に溯航し、是れより上流はやゝ淺水とす。若し夫れ珠江三角洲にして江南平野の如き絶對平坦の地ならば、虎門、黄埔の如き地點を選ばず、青膽江より直條に七十六キロの運河を開鑿し、直條に四百メートルの幅員と八メートルの水深を以てせば乍浦の新築港と長興の新國都に於けるが如くすべしと雖も、この三角洲は丘陵到る處に多く、特に西部に於て然り。故に不得止虎門、黄埔、金星門港等を以て之に甘ぜざるべからず。然れども九江の下流より直條に廣東の西部に三十二キロメートルの大運河を開鑿せば、やゝ上に

云ふ直條に比し不利なりと雖も、猶用ひ難きに非ず。然れども九江より佛山の南東に至るまでは丘阜の内を開かざるべからず。故に勞と功相償はざるべし。故に不肯は一の案として之を記するに止め、實行は金星門、虎門、黄埔を以てせざるべからずと信ず。唯他日膽江流域の發達隆盛を加ふるの時に至り、廣東との連絡を求むる事急なるに至らば、ジャンクション水道と陳村水道との間、順德の西方を通過する二十二キロの新運河を開かばやゝ目的を達すべし。功少なきに似たれども勞も亦少なし。

崖門は南宗の最後の皇帝元[33]兵の追撃を免れん爲、安南に走らんとして是に逃れ終に覆沒せる地なり。一の哀史の史蹟として保存せらるべき地なりとす。現時猶荒廢せる祠廟[34]を有せり。治安平靜の後は一の紀念史蹟とし、行遊をなすべき地なりとす。

七、結　論

水利は上に言ふが如し。此の地域の水利は水道を疏通するの外、海面の沙灘[35]を填塞する必要あり。此の點は一般の支那水利と相異せり。嶺南は地熱にして雨多し。尺寸の地も耕やさゞるべからず。況や至便至利の區域をや。故に水利は填塞と平行せり。恐くは填塞の利は築堤の費を償うて餘りありと信ず。費額の概算も今之を計上するはず。唯時間を要する事大なりと雖も、費は極めて少額なり。大約全能はず。癈殘のジャンクに砕石を滿載し沈下するが如きは、決して巨額に非ず。填塞も自然の潮の上下によるを以て、是れが計上をなす部の水利は三億圓以下なるべしと信ず。十年を期し之を行はゞ年額

は僅々三千萬圓にして、而も填塞せる土地は二十萬ヘクタールに上るべし。他日鹹鹵を脫し、美田たるの期は一ヘクタール最少の額たる年産米二十五石を得るとなすも、五百萬石の米は收穫すべく、假りに米を以て之を算するも然り。他の農作物も之に準ずべし。珠江三角洲は臺灣と同じく米産は年二回なり。此の點は江南に比し更に利益多し鐵道を此の三角洲内に入るゝはやゝ困難なり。到處水道多く架橋も少なからずと雖も、別圖に示すが如き敷設は行はざるべからず。水利によらざる地方物産は鐵道に非ざれば送致すべからず。粵漢線の如き大動脈は海港に連絡せしめざるべからず。礦産は決して水邊のみに得らるゝ物に非らず。故に是れが連絡は絶對必要なり。我邦人は極めて嶺南の地理に暗し。所謂支那通と稱する人士も亦然り。我邦人の支那に於ける知識は緯度に正比例し減少し、北支より中支に南支

に漸減し、北緯二十度に於ける知識は四十度に於けると比し半減せり と云ふも實は三分一だも、四分一にだも及ばず。

故に珠江三角洲の重要性を爰に力說するも、恐くは我邦人には十分の感覺を與へざるべし。然れどもその知ると知らざるとに拘はらず嶺南の富饒は一物を減するに非ず。故に是を說かざるべからず。不肖は過去三十餘年嶺南に通ひし事數十回に及べり。その富饒も熟知せり。不肖の如く實地踏査をなせし人は、我邦官民中にもその數極めて少なし。現に嶺南地方は一般に第三國の權益は重大なりと誤信せり。何ぞ知らん、第三國の權益は北支の三分一にだも達せず。是その一例なり。不肖すら猶嶺南の地理、物産に於ては自からその明に誇能はず。知る處は百中三、五にして知らざる所は九十五、七なり。況や不肖以下の嶺南に關する知識を有する人をや。

此故に我邦人は最も薄き資源を有する北支に於ては重要性を知るも、最も厚き資源を有する嶺南は殆ど是を顧みず。農林産の豐富なるは、熱と雨とによるを以て常識に於ても、北支に數倍するは理の當然なれども、礦産に於ても石炭を除かば其他の礦物は皆嶺南に集注せり。タングステンの如きは世界に於ける第一の産地なり。その他鐵の如き、鉛、亞鉛、銅、マンガン皆然り。油頁岩は茂名電白の間に二十餘ペルセントの最優良の礦石數億トンを埋藏せり。撫順の品質に三倍せり。石油も貴州に産せり。雲南も貴州も皆西江によりこの珠江三角洲に輸送せらる。湖南南部も亦然り。

故に珠江三角洲の將來は決して江南に於ける地位に劣るものに非ず。上海と廣東と兩者を比較せばその差は僅少なり。唯揚子江の水利は遙かに西江に勝り、廣西の平野は遠く湖廣の平野に及ばずと雖も

西江水利を調整せば必しも及ばざるものに非ず。我臺灣は實に是れが門戸をなせり。臺灣に於ける熱帶農林の經驗は十分に嶺南開發の指導者たるの經驗を有せり。

我邦人は夏時には旅行を好むと雖も、冬季は新年と年末に會するを以て多く旅行をなさず。故に夏時滿洲、北支に遊ぶも嶺南に遊ぶ人なし。嶺南は溫度は必しも北支に比し高からず。特に海岸地方は北支より低下せり。天津の絕對最高は四十二度に及べるも、廣東は三十八度半に過ぎず。唯南方なるが故に冬季の溫度の累進加增するが如く信じ、印度の酷熱と相類するものと誤信せり。故に遊歷の人甚だ稀れなり。冬季の快晴溫暖は支那第一にして百花爛漫の好時節なり。我邦中に於ても臺灣南部以外は之に及ぶ地なし。

我邦人は宜しくこの珠江三角洲に重要なる關心をなし、これが研究は朝野擧て之を行ひ、農に、工に、商に、その業とする所に從ひ、進展せざるべからず。南進は國策なり。牢（ろう）として拔くべからず。不肖は之に關しては決して微力を吝（を）しむものに非ざるなり。

昭和十四年四月六日

上海に於て

註解

巻末に難解字句、人名等に關して多少の註解を附した。もとより著者の關せざる所で却つて其の文意を傷つくるを恐れるが、唯我々無識の現代人の爲になしたのである。

自序の註

①軒轅　支那古代の帝王黄帝の名、史記に出づ

②文質炳煥　外觀の美と實質とが光りかゞやくこと

③氣序變和　氣候がやはらぎて程よきこと

④唐水、殷旱　唐代の水害、殷代の旱魃のこと

⑤漠　ゴビ沙漠を言ふ

⑥身毒安息　身毒は今の印度、太古印度阿利亞族が西方より移住した信度（インダス）河邊の國の意。インドは其の轉訛である。安息は西域にあつた安息國。即ちパルチア國のことである。エウフラテス、裏海、アラビヤ海の間にあつた

⑦李世民　唐高祖の二子、秦王に封ぜられ後卽位して太宗と言ふ

⑧戒日王　印度ウドヤニー烏萇國の王、佛教を興隆し文學技藝を奬勵し、其の號令は殆ど全印度に及んだ。西紀七世紀頃、唐の盛んなるを聞き使を遣はして朝聘した。

⑨冀　南　冀州の南方、冀は今の直隷、山西及江河以北遼河以西の地を言ふ

⑩鐵木眞　元の太祖、成吉思汗のこと

⑪白　纛　白旗のこと

⑫朱元璋　始め濠洲安徽省鳳陽縣の僧、元の末葉に郭子興と共に兵を起し、江東の地を略し、都を金陵に定め國を吳と稱した。然るに當時元廷内訌頻りであつたから元璋は之に乘じて兵を進め元の大都に迫り、順帝を追ひ、皇陵に即位して國を明と言つた。即ち明の太祖のことである。西紀一三六八年

⑬奴兒哈赤　Nurhachu 愛親覺羅氏の太祖、西紀一五八三年滿洲に起り、父祖の仇なる尼堪外蘭を滅ぼし、滿洲の諸部を統一し、蒙古を懷柔し、一六一六年自立して王となる

⑭弩末魯縞を穿つ能はず　弩は力强き石弓又は大弓。魯縞は魯の國曲阜あたりより産する薄く細き絹。即ち至つて强きものも其勢衰へては何事もなす事の出來ぬと言ふ意

⑮鼎革　王者の易姓革命を言ふ。鼎は易卦に於て新を取り、革は故を去るの義

⑯庶頑讒說　從はぬ人民が惡口を言ふ

⑰烝　民　おほくの民、蒼生、黎民に同じ

⑱逋　逃　罪をのがれること、又其の人

⑲虎　賁　勇士のこと、賁は奔虎の如くはしる義、もと帝王を護衞した周代の官名。後世獰猛なる軍隊の意に用ふ

⑳桓　々　强く武勇ある樣。詩經に桓武王保有厥土とある

大谷光瑞興亞計畫

㉑倒懸の苦　手足を縛つて倒に懸けられる非常な苦を言ふ。孟子公孫丑上篇に「當今之時萬乘之國行仁政民之悦之猶解倒懸也」とある

㉒聖謨宏々　天子の御はかりごとの廣大なること

㉓杜塞　ふさぎとぢること

㉔畎澮　田の間のみぞを言ふ

㉕伯益　舜の時處に任ぜられて山澤の事を掌りて功あり、よりて舜之に嬴の姓を賜ふ、其の子孫は秦に住し、皇帝の位に即いた

㉖禹　鯀の子。堯舜の時大洪水あり、鯀是を治めて功なく爲めに誅せられ、禹父に代りて道を通じ川を決し、九州を劃し、貢賦の制を定め終に舜に代りて政を攝し、舜の崩後其の讓を受けて天子となり、夏后氏と稱した

㉗蓬蒿　よもぎ等のしげみ。いやしきことに喩ふ

海南島開發計畫の註

①流謫の官吏　ながしものになつた官人

②李德裕　唐の相吉甫の子、政治的運命に弄ばれた人で文宗に依て兵部尚書となつたが宦臣の爲に鎭海節度使に遷され、武宗の時又擧げられたが、宣宗の時荊南節度使、更に崖州の司戸に遷さる。大中三年卒、學を好み文をよくす

③蘇東坡　宋の大詩人、唐宋八大家の一。蘇軾、自ら東坡居士と號す景祐三年生、建中靖國元歿、官にありて兵部尚書に至つた

④畏途　おそろしく、けわしい道

⑤黍稷　もちきびとうるちきび

⑥秦始皇帝　前卷註參照

⑦史祿　前卷註參照

⑧馬援　前卷註參照

⑨中土　邊境に對し、中なるよき地の意味

⑩週歲の蚊子　毎年の蚊の奴等

⑪瘴氣　熱病乃至風土病おこり

⑫蚊幬（ブン・チウ）　蚊帳

⑬遺蹤　のこしたあと

⑭ハンブルヒ（Hamburg）獨逸西北部エルベ河口より一〇五キロ上流の港市、ベルリンに次ぐ大都

⑮ブレメン（Bremen）獨逸西北部ヴェーゼル河畔にある自由市。

⑯リヒテンシュタイン（Lichtenstein）墺のフルルアルベルグと瑞の接續部にある小公國名ライン最上流にのぞみ首都はファドウーツ、牧畜、木棉工業機

械刺繍を主業とし尚穀物果物葡萄の栽培を見る。

⑰保稅區域　保稅地域稅關監督の下に外國貨物が輸入稅未納のまゝ或は藏置され或は輸送され得る地域を云ふ。卽ち保稅倉庫保稅工場稅關構內保稅鐵道貨車等は全て保稅地域である。

⑱痩驢に重荷を以てす　やせ驢におもい荷をおはしめること、困難なること無理なこと、可愛さうなることを言ふ

⑲蒙　おろかなること

⑳鏈　一鏈は一浬の十分の一。一八五米にあたる。興亞計畫1に既出

㉑紆　曲　うねりまがること。曲折に同じ

㉒山坡　坡は坂に同じ、卽ちやまざかのこと

㉓粗鬆　緊密の反對、あらくゆるいこと

㉔黎人　（Li）海南島に住するものにして黎蕃黎婆又は鴫人とも稱す。原始

人である。之に黎、岐、侇、苗の四種がある爲昔から四黎と言はれる。此の內黎人は黎明に居し漢族と隣接し、岐人は五指山の周圍に侇人は樂安、凡陽及白沙各峒に散在し、苗人に至つては山峒の頂上に雜居してゐる。

㉕曖昧模糊　ぼんやりしてゐてはつきり分らぬこと

㉖人烟　人々、人家と言ふ程の意

㉗マンダレー　Mandalayビルマ中央部、イラワデイ河の上流にあり

㉘植物油脂　植物性の油脂强ひて言へば油とは常溫にて液體のもの脂は常溫にて固體のものを言ふ。動物油脂はパルミチン酸、オレイン酸、ステアリン酸であり、動物の分泌物、魚油にふくまれ、植物油脂は別に不飽和のグリセリドを含む

㉙動物油脂　前項參照

㉚瘴癘　熱帶地方の惡疫

㉛アルカロイド　本來は植物中にある含窒素鹽基のこと、現今では專らピリヂン、キノリン、インキノリン等の誘導體で植物界に存する鹽基を言ふ。植物特に果實、種子、皮、葉等に有機酸と化合して存在する。この著しい特質は强い生理作用をなすことで猛毒のものが多く、之を利用してモルヒネ、コカイン、キニーネ等は醫藥とす

㉜沖積層　沖積世の地層を沖積層又は沖積統と稱し河底に堆積する砂礫、河口の洲、池沼中の植物の堆積がそれである。因に沖積世とは、地質時代中最新の時代で大部分現世とも云ふ。氣候、水陸分布、生物等が略々今日と同樣であつた時代である。

㉝遍海　遍はあまねく、あたりの海一帶

㉞「臺灣島之現在」　大谷光瑞著、菊判八三〇頁、東京有光社版、昭和十一年刊

㉟雨期　雨の季節。現れ方は地方により一定しない、赤道の南北十度間では

太陽が最高點に來た直後に雨期となり、雨季には毎日午後から夕刻に亘り驟雨がある。太陽が二回最高點に來るから長い雨季の間に短い乾季が狹り長い乾季の間に短い雨季がある。海南島は北緯約二十度で、その月別雨量は臺灣總督府によつて多少は紹介されてゐる。

㉖ 路基　路の基礎の意

㉗ 賑濟　賑救に同じ、にぎはし救ふこと

㉘ 天日乾燥法　鹽田に海水をひき之を天日にて乾燥する方法。天日法とも言ふ。之は最も簡單な製鹽法で雨天の少い地方でしか効果をあげ得ない。我國內地で行つてゐるのは前熱法である

㉙ 覆版　覆は復に同じ、卽ち復刻版のこと

㉚ 經緯　經度緯度

㉛ 三角測量　地表の遠く離れた諸點相互の位置を定め之等の諸點を結びつける直線の方向及び長さを定めて、測量の骨骼を形成するを目的とするもの、之が測量の基礎となるのである。

㊷ 祥異　祥はしるし、卽ち神意によるしるしの意。

㊸ 如意寶珠　靈妙なる珠であつて之を持つと願ひごとが全てかなふと言はれてゐる。如意珠とも言ふ。

嶺南の水利の註

①嶺　南　五嶺の南の地をさす。現代の粤中のこと。

②大　禹　禹の美稱。夏后氏舜についで天子となり道を通じ川を澤し、九州を劃し貢賦の制を定めた。

③九　州　九つの國。冀、兗、青、徐、荊、楊、豫、梁、雍を言ふ。尙書禹貢第一に出づ。

④禹貢楊州の域　禹貢とは書經の篇名にして禹の治水のこと及び地質古代物産等のことを詳記せる支那最古の地誌である。楊州とは禹の劃した九州（前項參照）の一。今の江蘇安徽二省の南部及び江西浙江の二省。

⑤會稽山　浙江省會稽道紹興縣東南十三里にあり。此地に越王城故址がある。

⑥衡　山　地名。湖南省にあり

⑦疏　濬　水底をさらへ通ずること。

⑧勒　す　おさへる

⑨梯　閘　梯式に段々に開閉の出來る水門を言ふ。

⑩秦　皇　秦の始皇帝。萬里の長城を作り、又天下の詩書百家の書をやき、阿房宮を作るなど絶大な力の政治を行つた。

⑪懸　注　水の高所よりかゝりながれること。

⑫僻　陋　不便な田舍のこと

⑬礁石散布　水中にかくれた岩があちこちに散在すること

⑭抑　勒　おさへとめること

⑮紆　回　めぐりまはること、迂回に同じ

⑯史　祿　秦の史官。始皇が百粤を伐つた時、史祿をして鑿渠轉餉せしめた。彼の舟楫を通じ、灌漑に利した功は多大で、其の掘つた渠は靈渠となづけられ

た。後馬援が之を繼疏した。

⑰馬　援　東漢初代の武將字は文淵扶風茂陵の人王奔の從弟林廣にすゝめられて葬につかへ新成大戸となる。後涼州にゆき綏德將軍となる。次で漢の光武帝に事へた。隗囂李廣等の反するに及び討伐に從事し次で交趾の徵側及び徵貳を伐ち共に功があつた。更に乞うて武陵五溪の蠻夷を伐たんとして南土の瘴氣にふれて卒した。年六十二。明帝の皇后明德馬后は其の子である。

⑱殘（ザン）嗩（サン）　殘りのあへぎ餘命と言ふ程の意讀み方注意

⑲浚　疏　底をさらへて通ぜしめること

廣東及珠江三角洲の水利の註

①棊　布　棊石を布いた如くちらばり並ぶこと

②堤　塘　堤防に同じ

③漲　潮　あげしほ

④轉　彎　まがること

⑤淤　塞　おそく又はおさい、ふさぐこと

⑥罅　隙　かけたすきま

⑦雍　塞　ふさぐこと

⑧大潮升　小潮升　しほのあがつた時とさがつた時

⑨孫　文　支那の政治家字は逸仙、中山と號す。はじめ醫を學ぶ廣東に於て同志と興中會をおこし革命主義を鼓舞失敗して日本にも亡命、時に勢を得大總統、大元帥等となることもあつたが慨ね逆境にあり、民國十四年北京で病歿した。然し其の主張は蔣介石によつて繼承され、近代支那の父となつてゐる。其の主張は三民主義、五權憲法等として知られてゐる

⑩吳鐵城　支那の政治家光緒十一年廣東省中山縣に生る。孫文の義子、孫文の參謀廣東省香山縣の知事廣東警備司令、廣東省政府委員等を經て上海市長。國民黨右派の重鎭

⑪韓文公　文章の宏遠を以て知られた韓愈のこと唐宋八大家の隨一。死するに及び禮部尙書を贈られ文と諡された

⑫粵漢鐵道　湖北省武昌より廣東に至る約千百四十キロメートルに亙る鐵道。支那本部縱貫幹線の南半をなす。

⑬浚　渫　泥をさらつて深くすること

⑭丘　阜　丘も阜もをかのこと

⑮堰　堤　堰はもりつち。つゝみのこと

⑯滾　入　滾々と水がながれ入ること

⑰荔　枝　植物。高さ三尺許り、其の果實は龍眼に似て肉は白くて甘い。

⑱嶺　南　五嶺の南現代の粵中を言ふ

⑲堆　土石等もりあがれる所を言ふ

⑳ユニオン・ジャック　英國國旗

㉑九龍半島　香港島に面せる支那南部の半島

㉒險　礁　けはしい礁。礁は水中にかくれた岩石。

㉓ケーソン　Caisson 函塊又は潛函岸壁防波堤等の堤體に使用されるものと橋梁の基礎に使用される壓縮空氣を利用する潛函とがある。

㉔ジャンク　Junk正しくは和船及び支那船の總稱なれども普通には支那船を言ふ

㉕唐紹儀　支那の政治家。廣東省の出身、コロンビア大學卒。一九一二年民國第一次内閣の國務總理、後袁世凱の顧問。實業界に入る。後孫文と共に廣東軍政府を組織、財政部長となる。南京政府成立後國民政府最高顧問。

㉖犀利　銳敏と言ふに等し

㉗潺熱　潺はしめりぬれること、卽ち潺熱はむしあつきことを言ふ

㉘盡頭　とつさきの所

㉙閘門　閘はひのくち、時々開閉する水門を言ふ。

㉚富庶　ゆたかで物の多きことを言ふ。

㉛鹹鹵　鹽分をふくんで不毛の地豐饒に對す

㉜遊弋　狩獵の意味にも船が海上に徘徊することにも用ふ。こゝではこの兩者何れに取つてもよい。

㉝南宋の最後の皇帝　後周の大將趙匡胤が恭帝の讓を受けて汴に卽位したのが宋の太祖であるが後欽宗の時金に攻められ宋は一時中絶してゐたが其の弟康王が南京に行つて高宗と稱した。之より以後を南宋と言ふ。其の最後の皇帝は帝昺である。帝昺に至り、元軍の南侵益々急で帝昺は崖山に據つたが元將張弘範が終に崖山を陷れ帝は海に沒した。時に西曆一二七九年。宋の太祖以來十八代三百二十年、南宋としては九代で終つたのである。

㉞祠廟　やしろ、ほこら等を云ふ

㉟沙灘　沙とは水中の小石灘は水中石多く或は急流にて舟行の危險なるところ

印檢者著

昭和十四年七月二十日印刷
昭和十四年七月二十三日發行

定價金壹圓參拾錢

著者　大谷光瑞　京都市伏見區桃山三夜莊
發行者　村田鐵三郎　東京市麹町區丸ノ内三ノ八
印刷者　加藤保　東京市神田區三崎町二ノ十二ノ四

發行所　大乘社　大阪市東區本町四丁目津村別院内
有光社　東京市麹町區丸ノ内三ノ八　電話丸ノ内三〇二〇番　振替東京六六一五番

大谷光瑞興亜計畫奥附

大谷光瑞全集

全十三卷 定價各册金壹圓八拾錢 送料市内六錢 内地十六錢

四六判五百五十頁 本文九ポ總ルビ附 絹表紙金文字入 岡田三郎助畫伯裝幀

- **淨土三部經** 大無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經は、淨土眞宗の根本聖典にして、梵、漢、和、英の四ケ國語を對比して、懇切明快に講述し、何人にもその奥義を會得せしむる一大名著にして嘖嘖たる好評を博せるもの。
- **三經篇** 本篇收錄の妙法蓮華經講話は、學徒としての猊下の眞面目を發揮せる名講話にして、夙に佛教學者をして驚歎せしめ、維摩經講話は、これ又豪僧維摩の全貌を彷彿せしめる獨得の名調子。
- **般若涅槃經** 熱烈なる學究的良心を以て、悉く梵語の原典にして眞僞をたしかめ、釋尊晩年の相貌に最も獨創的なる批判を交へて論述するところ、到底凡百の學徒の企圖し得ざる快著なり。
- **現世未來利益篇** 無量光安樂莊嚴經は、これ即ち佛陀が西方安樂國土の全貌を物語る經典にして、後生大事の根本義を闡明せるものなり。附錄の金光明最勝帝王經講話は降魔の寶劍にて逆賊に向ふ烈日の氣魄を示すもの。
- **信樂篇** 若き日の猊下が一世の蘊蓄を傾け、不退轉の覺悟を示して執筆せる一見眞大師」の一篇こそ、いやしくも佛門にある者の敢て江湖の御清鑑を乞ふ。斷じて見逃すべからざる名著である。淨土眞宗の精髓として
- **教義篇** 從來諸說紛々たる「王舍城所說無量壽經」及び「舍衞國所說無量壽經」に對して、その該博なる智識を傾けて徹底的に比較研究されたる佛教學徒の啓蒙資料として高名なり。

裝幀

大谷光瑞全集

- **孫子新註** 附無題錄 支那古代の名著「孫子」に對して、猊下獨自の新解釋を下せるもの。而も兵法に借りて處世の大道を明示せる高邁なる識見は、之を聽くもの千金の價値あり。「無題錄」はこれ日本國民に對する一大警告の名文。
- **食・花・陶瓷** 支那古陶瓷を一讀すれば、何人もその隘離たる光彩に驚歎するであらう。多角型的なる才能に、多方面なる趣味。而もその飽迄科學的なること師の如きは稀有の存在なり。本篇に收むる食・花・支那の足跡は洋の東西に亘り、軒昂たる覇氣と俊敏なる洞察力を以て、產業開拓のために轉々放浪すること幾星霜。本書はこの足跡を記して綴れる一篇の好文學にして興趣無限。
- **漫筆篇** 猊下の足跡は洋の東西に亘り、軒昂たる覇氣と俊敏なる洞察力を以て、產業開拓のために轉々放浪すること幾星霜。本書はこの足跡を記して綴れる一篇の好文學にして興趣無限。
- **支那問題** 看よ！既に十數年前に日支衝突の避くべからざる所以を豫言せる猊下が、憂國の赤誠を吐露せる一代の名論にして、豪壯なる筆致、秋霜の慨、野人光瑞の眞面目を發揮せる快著である。
- **大經義書** 大無量壽經義疏は、猊下の數多き御著作中、最も意義深きもの。淨土眞宗の根本聖典に磐石の重きを加へたるもの。附錄の「能斷金剛般若波羅蜜多經講話」と共に御清讀を乞ふ。
- **隨筆集** 折にふれ、機に應じ、悠々自適の中に炯眼博識を彩管に託す。月、雪、花、雲霞、飛煙、天地有情を紙上に漂はせて、名文家としての猊下を識るに絶好の資料なり。
- **淨土論註** 「淨土論註」は曇鸞大師が往生論を詳解されたるものにて、宗祖親鸞又之に甚信され給ふ。光瑞猊下舊稿に幾多の大改訂を加へ、萬全を期して本全集に收む。以てその眞價を窺知し得べし。

大谷光瑞猊下二大名著

臺灣島之現在

南方日本の生命線たる臺灣寶土の一大研究書

著者曰く「小なりと雖も臺灣は日本に於ける唯一の熱帶産業地だ。その全産物は尨大なる滿洲國のそれに匹敵し、此地を活用するとせざるとは國富に及ぼす影響年額凡そ十數億を算すると之を證明する」と。これ決して余の豪語に非ずして事實が

内容目次の一部

臺灣の農作物―果實―澱粉植物―染料植物―タンニン―纖維植物―香料植物―藥用植物―その他

臺灣の林業―樟腦―チクー―マホガニイ―紫檀―その他

臺灣の畜産―水牛―シンド種―ギル種―マイソル―その他

臺灣の鑛業―石油―金―銅―石炭―その他

以上の外工業、交通、觀光、氣象等一切を網羅す

定價 金拾圓

送料 市内六錢 内地二十四錢 殖民地四十七錢

菊判 八百三十頁

附圖口繪 百五十葉

表紙背革天金文字入函入

支那の將來と我帝國の使命

現下時局の最高指導書として識者及爲政者を驚歎せしめた問題の快著！

過去十數年來絶えず對支强硬外交を稱へ來つた大谷光瑞猊下は、日支事變の勃發するや直ちにその蘊蓄を傾けて吾が日本帝國の進むべき道を明かにすべく、萬腔の赤誠をこめて本書を公にされた。支那に居住し、支那そのものを研究すること幾十年、而もその炯眼は支那の全土の表裏に徹し、こゝに群少凡百の徒を壓して堂々たる所見を披瀝されたる好評を博しつゝあり。而も時局益重大、東亞の天地に暗雲低迷愈々濃くならんとする時、本書の眞價まことに燦然たるものあらん

定價 金壹圓

送料 市内六錢 内地十二錢

四六判 三百五十頁

本文五號活字

表紙オフセット美本